

## 職員による自己評価

- A「業務改善」について
- ・園長懇談等で聞き取った保護者のニーズをクラスの活動に反映している。
  - ・年度末に業務を振り返り、翌年度の事業に活かしている。
  - ・会議等職員が参画することで改善に繋がっているが、業務効率性の観点から引き続き改善すべき点もある。
- B「適切な支援の提供」について
- ・プログラムは子どもの理解、特性、興味に合わせて工夫し、毎回狙いを設定し、保護者に丁寧に説明するようにしている。
  - ・目標に沿って支援が進められているか確認しながら、日々の支援を記録している。
- C「関係機関との連携」について
- ・療育参観・園訪問を通して、保育所、幼稚園と連携している。
  - ・家庭で困難な状況がある場合はワーカーを通して区等と連携し支援している。
- D「保護者への説明責任等」について
- ・定期的な面談の他、希望時面談、電話、連絡用紙等、タイムリーに相談できるための工夫をしている。
  - ・クラスごとにおたよりを作成し活動の目的、連絡事項、次回の予定等を伝えている。
  - ・プログラムでの子どもの様子から、課題、子どもへの対応、その理由を伝えている。
- E「非常時等の対応」について
- ・非常時の各マニュアルは保護者へは周知しきれていないように思われる。

## 保護者による評価

- A「適切な支援の提供」について
- ・できているとの評価は95.5%。
  - ・その都度話をしてもらいながら、良い方法を工夫し、園でも家でも持続、達成できる支援になっている。
  - ・手厚い支援だと思うが、コミュニケーション能力が上達するかはよくわからない。
- B「保護者への説明等」について
- ・できているとの評価は92.4%。
  - ・忙しい中でも、療育時間やその前後、手紙や電話などで話が出来ている。自分で気付かなかった成長、発達、課題や援助を知ることが出来る。
  - ・コロナ禍で集まることが難しく残念。保護者同士で話ができる場が増えてほしい。
- C「非常時の対応」について
- ・できているとの評価は86.0%。
  - ・感染症の対応は理解しているが、その他は覚えていない。
- D「満足度」について
- ・満足との評価は93.5%。
  - ・とても楽しく通っている。

## 事業所内での分析

- お子さんへの適切な支援の提供と保護者への丁寧な説明により、高評価が得られていると感じる。
- 「非常時の対応」における、防犯マニュアル、感染症対策マニュアル等については、保護者への周知・説明がしきれていないとの意見があった。
- 引き続きコロナ禍においては、感染を予防し安全安心を確保しながら、保護者への丁寧な説明、周知、保護者同士の交流が促進できるようなサービス提供を進めていく必要がある。
- より効率的な業務遂行のため、引き続き業務改善を進める必要がある。

分析・検討してみても…

### 事業所の強み

- 一人ひとりのお子さんに適した支援を実施している  
診察・各種評価の結果を基に療育プランを作成し、保護者の意向も踏まえ、一人ひとりのお子さんの支援計画を作成している。併せて、作成した計画に基づいて他部門と連携し、お子さんに適した支援をセンター全体として実施している。
- 保護者支援の充実に努めている  
保護者向けの各種勉強会の実施、定期的な面談等を通して、お子さんに対する理解を深めていただき、より良い療育効果が発揮できるよう努めている。
- 多職種間での情報共有を行い、より良い支援に努めている  
多職種間で定期的に情報共有を行うことで、多方面からの支援体制が確立できている。

### 事業所の改善点

- 引き続き新型コロナウイルスの感染を予防し安全安心を確保しながら、保護者の療育ニーズを的確に捉え、療育内容、非常時のマニュアル等をより丁寧に説明、周知します。また、保護者同士の交流が促進できるような環境整備を進めます。
- 両親就労家庭の増加等、多様な家庭状況に合わせた療育の提供が図れるよう、療育体制の充実に努めます。
- より効率的な業務遂行のため、引き続き業務改善に努めます。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

本年度も新型コロナウイルスの影響の中、感染対策を徹底しながら療育サービスの充実に努めてきました。その中で、今回のアンケート結果から、保護者への療育方針や見通し等についてのより丁寧な説明や保護者が子育てに関する不安等について共有できる場も充実させていく必要があると感じています。

今後も、利用者ニーズに応じた新しいスタイルでのサービス展開について、より工夫しながら全職員で検討し、展開していきます。

保護者の皆様、アンケートにご協力いただきありがとうございました。

事業所名 よこはま港南地域療育センター

担当者 管理課長 大坂 恵一

## 職員による自己評価

- A「業務改善」について
- 保護者アンケート結果から業務改善につなげている。
  - 業務振り返り等によりPDCAサイクルに職員が参画して進めている。
- B「適切な支援の提供」について
- 個別支援計画書は、一人ひとりの課題や目的を設定し療育を行うよう工夫している。
  - 定期的にモニタリングを実施し、必要に応じて個別支援計画書の見直しを行っている。
- C「関係機関との連携」について
- 園訪問、療育参観にて、保育所・幼稚園との連携を図っている。
  - 児の主治医や協力医療機関について保護者と情報共有をし、連絡体制を整えている。
- D「保護者への説明責任等」について
- 定期的および希望時に面談を行い、助言および家族支援を行っている。
  - お子さんが思いを伝えやすいように、一人一人の状況に合わせた伝達手段（写真カード・スケジュール等）を活用している。
- E「非常時等の対応」について
- 月1回避難・消防訓練を行い、緊急時の児と職員の動きを確認している。

## 保護者による評価

- A「適切な支援の提供」について
- できているとの評価は93.0%。
  - 「個別支援計画に沿った支援が行われているか」の項目は全員が「はい」と回答し、高い評価を得られている。
- B「保護者への説明等」について
- できているとの評価は93.0%。
  - 「子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか」「定期的に、保護者に面談や助言等の家族支援が行われているか」の項目は全員が「はい」と回答し、高い評価を得られている。
- C「非常時の対応」について
- できているとの評価は93.0%。
  - 「定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか」の項目は全員が「はい」と回答し、高い評価を得られている。
- D「満足度」について
- 満足との評価は86.0%。

## 事業所内での分析

- お子さんへの適切な支援の提供と保護者への丁寧な説明により、高評価が得られていると感じる。
- 一人ひとりの課題や目的を設定し、療育プログラムを工夫して実施している。また、毎年業務の振り返りをする中で、プログラム内容の改善に努めている。
- 引き続きコロナ禍においては、感染を予防し安全安心を確保しながら、保護者への丁寧な説明、周知、保護者同士の交流が促進できるようなサービス提供を進めていく必要がある。

分析・検討してみても…

### 事業所の強み

- 一人ひとりのお子さんに適した支援を実施している  
診察・各種評価の結果を基に療育プランを作成し、保護者の意向も踏まえ、一人ひとりのお子さんの支援計画を作成している。併せて、作成した計画に基づいて他部門と連携し、お子さんに適した支援をセンター全体として実施している。
- 保護者支援の充実に努めている  
保護者向けの各種勉強会の実施、定期的な面談等を通して、お子さんに対する理解を深めていただき、より良い療育効果が発揮できるよう努めている。
- 他職種間との情報共有を行い、より良い支援に努めている  
他職種と定期的に情報共有を行うことにより、多方面からの支援体制が確立できている。

### 事業所の改善点

- 引き続き新型コロナウイルスの感染を予防し安全安心を確保しながら、保護者の療育ニーズを的確に捉え、療育内容、非常時のマニュアル等をより丁寧に説明、周知します。また、保護者同士の交流が促進できるような環境整備を進めます。
- 両親就労家庭の増加等、多様な家庭状況に合わせた療育の提供が図れるよう、療育体制の充実に努めます。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

本年度も新型コロナウイルスの影響の中、感染対策を徹底しながら療育サービスの充実に努めてきました。その中で、今回のアンケート結果から、保護者への療育方針や見通し等についてのより丁寧な説明や保護者が子育てに関する不安等について共有できる場も充実させていく必要があると感じています。

今後も、利用者ニーズに応じた新しいスタイルでのサービス展開について、より工夫しながら全職員で検討し、展開していきます。

保護者の皆様、アンケートにご協力いただきありがとうございました。

事業所名 よこはま港南地域療育センター

担当者 管理課長 大坂 恵一